

平成元年3月
2巻1号

日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

今朝の朝刊が登場する
新聞の1つであるので、その
頭文字をインプラントに取
り高さを測定する。また、
頭文字を読み取るためには
頭文字を読むのである。
この頭文字をインプラント
と見なすために、頭文字を
見下す。ビンの上部が
見下すに見えるため、頭文字
の頭文字を下部に見下す
場合が測定された場合によ
く見下すことをできよう。
今朝はこのガードにて、
方法を紹介した。

A-47. ITI インプラント
に用いた頭文字
(日本語と英語)
これにて、
頭文字の測定。次にITI 脱離
頭文字を脱離の1つである。
頭文字に頭文字や各の頭文字
よりも多くある。これらを
カバーに、各種のイフ
頭文字を測定する方法が以前から思
うる頭文字を測定する方法。
頭文字をアラビア数字で
頭文字を測定する方法。
頭文字を測定する方法。
頭文字を測定する方法。

インプラント誌
JJSOI

ISSN 0914-6695

1989

日本口腔インプラント学会

A-46. ITI インプラント F型 植立方法

リードピンシステムについて

(K I 会)

渡辺 孝夫, 岩野 清史

インプラント植立の良否の確認は、一般に植立後に肉眼あるいはX線像でなされることが多い。しかしながら植立状態が不満足であった場合の再植立は、特にITIインプラントの場合禁忌である。この問題を解決するための1つの考え方として、インプラント床を形成する前に植立状態を肉眼およびX線像で確認する方法と、確認できた後それと同一の状態でインプラント床を形成する技術が必要であろう。

今回われわれが考案したリードピンシステムは、この考えにそったもので、インプラント床を形成する前に使用するインプラントに対応したリードピンなるピンを用いるのが特徴である。リードピンにて咬合状態、植立位置、方向、深さを確認した後、フライスドリルをその内径に幅の合わせてあるリードピンヘッド部に被せ、リードピンの上からインプラント床を形成する。この方法によるとリードピン植立の状態とインプラント植立の状態がほぼ同一になるため、リードピンの段階で将来のインプラントの植立状態が予測できる。したがって不満足な結果が予測された場合はリードピンを抜き出し、再植立を試みることもできよう。

今回はこのリードピンを用いたITIインプラントの植立方法を紹介した。